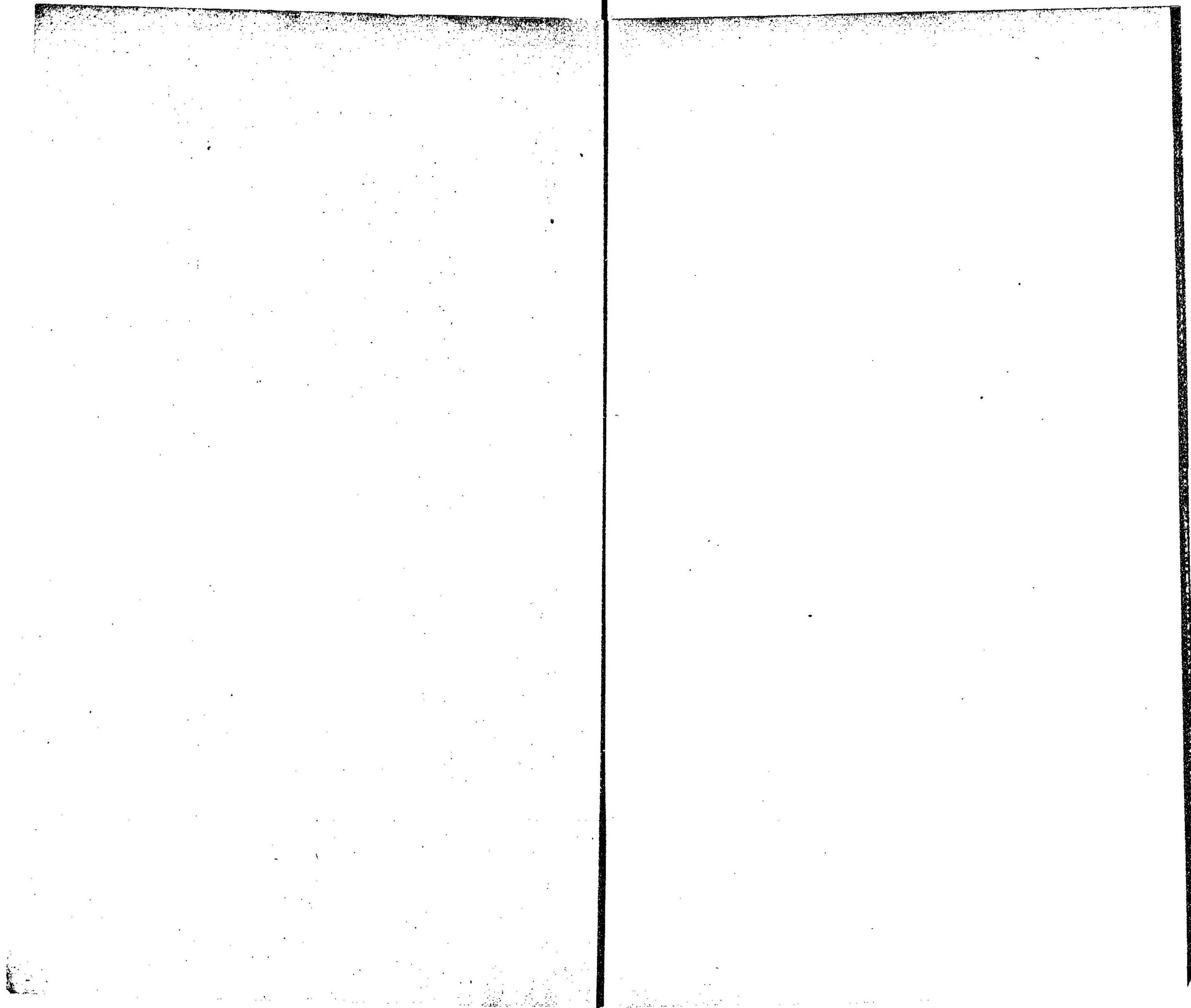


特44

86



265
109



法
中
傳
音
息
緒

傳

明治
43. 6. 27
丙交

己酉初夏

柳江題



金州南山

玉蘭作

扱も清國遼東半島の

咽喉扼す南山は

難攻不拔の要害とて

所謂一夫是に當れば

萬夫も進み能はざる

實に究竟の關門なり

然るに露軍は此山巔に據り

堅固の防備を施して

金州南山

我皇軍を撃退せむと

勇一げに待ち掛けたる

已に我第一軍の二枝隊は

普蘭店帯の地を占領

敵の連絡を断ちければ

徐に軍議を凝らうつ

敵軍攻撃の準備を為たりける

時こそ来れ臯月闇

二十五日の真夜中に

全軍陣地を出汐や

逆巻き寄する勢に

さしゆ嶮岨の南山に

押し崩れむ許りなり

折しゆ一天掻き曇り

忽ち閃めく電光に

轟き渡る雷諸とら

暴風起り猛雨来り

咫尺を辨せぬ其機に乗

先づ金州城を攻め落せり

此時夜はほのと明け初め

狹霧を渡る、朝日影

御國の旗章視る如く

いと目出度光景に

味方いよ、勇み立ち

山の麓に押寄せたり

敵は地の利、據れる堡壘に

大小砲を備へ着け

其前面に數多の地雷を埋め

又鐵條網を張り繞り

警備オサ、嚴重にて

空飛ぶ鳥にあらずれば

輒近づぐべし見ゆるけり

さばれ我勇敢なる軍隊は

少くもためらふ色はなく

第一師團を中央と

第三師團を左翼に備へ

第四師團を右翼に張り

敵の陣地を取り圍む

ヤガテ開くや兩軍の

砲戦互に優劣なく

いづか勝負あるあらうとの

血氣に誇る關東武者

意氣衝天の勇を鼓

敵陣目指し突撃せしむ

筒先下りに打ちたるす

敵の射撃に堪りぬす

あはれバタくと撃倒る

残念なりと新手を替へ

幾度も強襲を繰返せ兵

鐵條網に又もまたげられ

頗る苦戦に陥りたり

我左翼の第三師團は

敵の包圍になやませられ

携へ行きし弾薬は

残り少なくなつれば

むかしの名残今ここに

見せばや三河の武者振を

砲火を冒し突進す

折れこそあれ金州灣の沖合に

進みよりたる我艦隊は

第四師團に力を協せ

いかれる如き猛弾を

敵の左翼に打ち注げば

さすが頑固の敵軍も

遂にひるみて沈黙す

いざや猶豫もあら碓を

渡り群がる浪速の勇士

巉巖絶壁物とせせず

最と易げにも攀登り

首尾克く敵陣奪ひ取り

國旗をこそはあげたりける

たねはせごと第三師團

轟然敵壘に肉薄し

劍尖交る激戦に

敵を縦横に薙ぎ散り

全く南山を攻め取りて

ドットあげたる三軍の

勝鬨天地に響きたり

時に夕陽渤海に輝き

明月和尚山の上に懸り

日月ともに皇軍の

名譽の勝利を言祝ぎて

慰勞ふ如く見込にけり

嗚呼我日本の國光は

世界に隈なく影を以て

仰ぎぬ者こそなるを

明治四十三年六月十日印刷
全 四十三年六月二十五日發行

編輯人兼

有村 彌四郎

印刷人

藤井 護三郎

發行所兼

藤井 改進堂

長電話東二七〇番

大阪市東區和泉町二丁目一番地

大阪市東區和泉町二丁目一番地

電話東四五五九番

265

109

